



平成 29 年 11 月 22 日

しののめ信用金庫 上半期決算概要を公表

事業先、個人向け融資に積極的に取り組み、 当期純利益 1,074 百万円を確保

- ▼ しののめ信用金庫（群馬県富岡市 理事長 横山 慶一）は、平成 29 年度上半期決算概要を公表するとともに、「平成 29 年度経営内容の中間報告（平成 29 年 9 月 30 日現在）」（半期ディスクロージャー誌）を開示いたします。
- ▼ 地域経済が緩やかに回復基調が続いているなか、事業性融資では、卸小売業、サービス業、医療介護等を中心に資金需要に積極的に対応したこと、また個人向け融資では住宅ローン、消費者ローンについて、店頭や渉外での営業活動に加えて、ローンプラザ（土日営業店舗）窓口やインターネットで手続き可能なローン商品の取扱いなど利便性の高い販売チャネルでの推進を強化しました。こうした積極的な営業活動の結果、貸出金残高は前年同期比で 6,808 百万円（増加率 1.54%）増加し、448,450 百万円となりました。預金残高は、個人、法人ともに流動性預金を中心に前年同期比で 9,506 百万円（増加率 0.99%）増加し、969,045 百万円となりました。貸出金、預金ともバランスよく堅調に増加しています。
- ▼ 損益について、マイナス金利政策等の影響もあり、貸出金金利や市場金利の低下による貸出金利息、預け金利息の減収を主な要因として、業務収益は前年同期比 586 百万円（8.70%）減少し、6,145 百万円となりました。業務費用は、前年同期比 138 百万円（2.59%）減少し 5,188 百万円でした。その結果、業務純益は前年同期比 447 百万円（31.87%）減少し、957 百万円となりました。本業での収益力を示すコア業務純益（実質業務純益－国債等債券損益）は、172 百万円（23.90%）減少し 548 百万円となりました。
当期純利益は、個別貸倒引当金等の信用コストの減少など収益の増加要因があったものの、貸出金利回、市場金利の低下により資金運用収益が減少した結果、当期純利益は前年同期比 57 百万円（5.06%）減少し、1,074 百万円となりました。



- ▼ 自己資本比率は国内基準で求められている 4%を上回る 7.64% (前年同期比 0.21%減少) となりました。コア資本 (分子部分) は当期純利益 1,074 百万円を確保したものの、分母となる貸出金や有価証券のリスクアセットが増加したことによるものです。
- ▼ 金融再生法に基づく開示債権 (不良債権) は、17,136 百万円、その内訳は「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」が 3,171 百万円、「危険債権」が 13,664 百万円、「要管理債権」が 301 百万円。不良債権比率 (金融再生法に基づく開示債権比率) は、3.81%となり、前年同期比 0.03%減少し貸出資産の健全化が図れています。

前年同期 (平成 28 年 9 月期) との増減を、主な開示項目ごとに表でまとめると以下のとおりです。

金額単位：百万円

| 開示項目 | 28 年 9 月期 | 29 年 9 月期 | 増減値 | 増減率 |
|----------------------|-----------|-----------|--------|---------|
| 預金積金残高 | 959,539 | 969,045 | 9,506 | 0.99% |
| 貸出金残高 | 441,641 | 448,450 | 6,808 | 1.54% |
| 業務純益 | 1,404 | 957 | △447 | △31.87% |
| 実質業務純益 | 1,380 | 972 | △407 | △29.50% |
| コア業務純益 | 721 | 548 | △172 | △23.90% |
| 経常利益 | 1,236 | 1,219 | △16 | △1.36% |
| 当期純利益 | 1,131 | 1,074 | △57 | △5.06% |
| 金融再生法に基づく開示債権 (不良債権) | 17,020 | 17,136 | 116 | 0.68% |
| 開示債権比率 (不良債権比率) | 3.84% | 3.81% | △0.03% | — |

(計数については単位未満を切り捨てて表示しています。)

当金庫は、平成 29 年度上半期の経営内容を開示したディスクロージャー誌を作成し店頭
に備え置くとともに、ホームページ上でも同じ情報を開示いたします。